

単元指導計画表

小学校第1学年

ずをつかってかんがえよう
【新編 あたらしい さんすう1上 P.56~63 (東京書籍)】

全5時間

引 「見方・考え方」を引き出す発問の視点

- 引①：持っている知識や経験から導き出させる。
- 引②：多様な考えを持たせる。
- 引③：課題を見いださせる。
- 引④：考えの見通しを持たせる。

鍛 「見方・考え方」を鍛える発問の視点

- 鍛①：自分だったらどう考えるかを再考させる。
- 鍛②：知識を関連させ、概念的・汎用的な考えに高めさせる。
- 鍛③：考えを比較、検討する必要性を生じさせる。
- 鍛④：考えをゆさぶる。

次	時	本時のねらい	主な学習活動	引	鍛	視点番号
				「見方・考え方」を引き出す発問	「見方・考え方」を鍛える発問	
1	1	順序数と集合数に着目し、具体物を操作したり図を用いたりして表すことを通して、順序数を集合数に置き換えて式に表すことや計算の仕方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> • 順序数を含む問題はどのような加減計算になるかという課題を捉える。 • 具体物の操作や図を基に問題の構造を捉え、順序数を含む場合の加減法について考える。 • [1]の問題との違いを明らかにして図に表し、順序数を集合数に置き換えた減法について話し合う。 • 学習を振り返る。 	引 〔教科書P.56を見せながら〕この図の中で問題文の男の子がいる場所は、どうやって探したらいいでしょう。	鍛 図にかいてみると、どのようないいことがあるでしょう。	引① 引② 鍛②
	2	異種の数量と同種の数量に着目し、図を用いて1対1対応で表すことを通して、問題の構造を考え、同種の数量に置き換えて加減計算ができることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • 異種の数量の場合どのような加減法の式になるかという課題を捉える。 • 図を基に問題の構造を捉え、異種の数量の加減法について考え、話し合う。 • 学習を振り返る。 	引 子供が乗っている乗り物の数は、どのように考えればいいでしょう。	鍛 〔Oや△で表した異種の数量を示し〕Oや△で考えてみて、気付いたことは何ですか。	引① 引② 鍛②
2	3 ※授業例	問題文の言葉に着目し、問題文の表現を基に、図に表すことを通して、問題場面の意味を捉えて考える。	<ul style="list-style-type: none"> • 求大の場合どのような計算になるかという課題を捉える。 • 問題を図で表し、それを基に求大の構造を捉え、どのような式になるかを考え、話し合う。 • 学習を振り返る。 	引 「みんなで」や「のこりは」など、考えるときのヒントの言葉がないときは、どのようにして考えればいいでしょう。	鍛 図をかいて考えるときに、何に気を付けて考えましたか。	引③ 鍛②
	4	求大と求小の違いに着目し、求小の関係を図に表すことを通して、減法の式に表し、計算する。	<ul style="list-style-type: none"> • 求小の場合どのような計算になるかという課題を捉える。 • 問題を図に表し、それを基に求小の構造を捉え、どのような加減法の式になるかを考え、計算する。 • 適用問題に取り組み、学習を振り返る。 	引 〔前時の求大の問題を提示して〕前の問題と比べて、気付いたことは何でしょう。	鍛 〔問題文の「少ない」を指しながら〕「少ない」とは、どういうことでしょう。	引③ 鍛②
3	5 ※授業例	数量の関係に着目し、問題の場面を図に表すことを通して、計算の意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> • 問題場面から、答えを求めするにはどうすればよいかという課題を捉える。 • 問題場面を図に表し、それを基に場面の構造を捉えながら考え、話し合う。 • 図を用いて式中の1の意味を考える。 • 図を使って考えることのよさを話し合う。 • 学習を振り返る。 	引 〔人が並んでいる絵を見せながら〕問題の絵で、先生の他に何人いますか。	鍛 どのようにすれば大事なことを忘れずに考えることができますか。	引③ 鍛②